



こばやしまさき
小林昌樹

中吉 店主。
好きな食べ物は
ロースカツカレー。



むらまつたけのり
村松文徳

村松商店 副店主 七代目。
好きな食べ物は白飯。

小諸市役所地域おこし協力隊。
好きな食べ物はミートソーススパゲッティ。

小諸の宵語り

地域おこし協力隊が、小諸で
仲良くなったおじさんと語ります。

良いものは、残る。



村「荒町に昔、いい駄菓子屋があったの。無愛想なじじいが、ひめくりカレンダーで袋を作りながら店番やってて。」

堺「へえー」

村「いらっしやいも何も言わないんだよね。んで、【すいません、おじさんこれください】ってお菓子持つていくと、無言で睨むようにしてさ、持っていった駄菓子を思いっきり【ブツ】って唾飛ばしながら膨らました袋に入れてくれんのよ。」

堺「ええー（笑）」

村「子どもの頃は何か思わなかったけど、あのおやし（笑）。でもよかったんだよね、無愛想でさ。子どもにせつたいに迎合しないっていうのがさ。そういう駄菓子屋を、俺もやってみたいんだよ」

堺「村松さんにはできないよ。一緒に遊んじゃうもん（笑）」

村「んで、よく来たな、持ってけー」ってね（笑）。いやあ、駄菓子屋やりてえな」

小「駄菓子屋やりたいよね」

村「本屋さんもやりたいな」

小「じゃあ、本屋さん兼駄菓子屋さん、やればいいじゃん」

村「それいいね。気の利いたのじゃなくて、古い古民家みたいなところで。」

堺「なんで、そもそも駄菓子屋やりたいんですか？」

村「最近のはさ、みんな子どもたちにすり寄ってるじゃん（笑）。昔はさ、【チクシヨールあいつ】って思われるようなひとがいたんだよ。何もやってねえのにさ、【何やってんだこのヤロー！】って怒鳴ってくるようなひとがさ。」

小「わかるわかる、居たよね。」

堺「カミナリ親父的な（笑）」

村「今はそういう理不尽さがないから。みんないいひとじゃん。【あのじいさん怒らないけど、目を光らせてる】みたいなのはない。」

堺「たしかに。そうゆうひとたちがいるから、社会がうまく回ってたり。」

村「言葉にすると難しい。不思議な存在。駄菓子屋ってさ、儲けるのは大変そうだからこそ、余生を楽しむっていう意味でやりたいけど、おれが余生とか言ってる頃には駄菓子屋なんて言葉なくなっちゃってんじゃないかな」

堺「いや、そんなことはないと思いますよ。今だって、僕らみたいな大人が懐かしくって買うこともあるし、子どもが少ないお小遣いでも買えるものって他にないから、なくなることはないと思う。レコードだって残ってるんだし。世の中に必要なものなら、残っていくんじゃないかな。」

小「みんなオワコンっていうけど、結局終わらないもんね」

堺「そうなんです。流行が過ぎても、良いものは好きな人がちゃんと引き継いでいく。本当の意味で終わることはないんですよ（続）」



【令和4年度】明るい選挙啓発ポスターコンクール 受賞作品の紹介



小諸市長賞
美南方丘小学校6年 高野紗綾さん



小諸市選挙管理委員会委員長賞
小諸東中学校2年 林奏汰さん

市内小学校4校・中学校1校の児童生徒の皆さんから、啓発ポスターの応募作品が234点ありました。その中から、「小諸市長賞」「小諸市選挙管理委員会委員長賞」を決定したので紹介します。

また、受賞作品2点を含めた60点を佐久地方審査へ出品しています。このコンクールは長野県審査、全国審査まで行われ、結果は11月に発表予定です。受賞作品は、今後の選挙啓発活動に利用させていただきます。

☎ 選挙管理委員会事務局